

「相棒」と「下町ロケット」の名台詞



正月に「相棒」と「下町ロケット」という二つのテレビドラマを見ました。ご覧になった方もいると思いますが、印象に残った台詞がありましたので紹介します。一つは、「相棒」での大地真央さんの台詞。

『日本の皆さんは政治に興味がないんじゃないでしょうか？政治に携わる方々が失言しても、お友だちに便宜をはかっても大して問題にならないんですから』。

これは安倍内閣に対する痛烈な皮肉です。

大企業の社会的責任の重さ

もう一つは、「下町ロケット」での吉川晃司さん(上の写真)の台詞。

『我々は帝国重工です。世の中のために、救えるものであれば手を差し伸べる。それが、わが社が担う責任であるべきです』。(注)帝国重工というのはドラマに登場する大企業のこと。

「大企業としての社会的責任を果たす」という誇りに満ちた言葉です。私がよく言う「大企業は社会的責任を果たせ」ということと一致します。

この二つの台詞には、制作者の心意気が感じられます。正月早々、いいドラマ(台詞だけでなく内容も)を見せてもらいました。

こうきの主な日誌(1月1日～1月27日) 赤旗の配達、集金活動等は除く

- | | |
|------------------------------------|--|
| 1～3日 正月休み | 16日 市党会議 |
| 4日 市議団ニュースづくり | 17日 議会報告づくり |
| 5日 訪問活動 | 18日 予算決算委員会理事会 予算決算委員会
議会全員協議会 産業建設委員会協議会 |
| 6日 消防出初め式 訪問活動 | 19～23日 インフルエンザのため休養 |
| 7日 新春賀詞交歓会 訪問活動 | 24日 議会報告づくり |
| 8日 市議団ニュースづくり | 25日 訪問活動 |
| 9、10日 訪問活動 | 26日 亀山社保協運営委員会 |
| 11日 訪問活動 党会議 | 27日 野村きぼう苑「新春のつどい」 |
| 12日 市議団ニュース折り込みの手配 | |
| 13日 シティマラソン 成人式 | |
| 14日 南野町第3自治会総会(あいさつ)
市議団ニュースの配布 | |
| 15日 相談活動 | |



春の訪れ
ロウバイの花

この議会報告についてのご意見、ご感想をお寄せください

この議会報告は毎月月初めに発行しています 好きです 亀山 住みよい街に

2019年 2月 3日 発行 No. 236

こうきの議会報告

日本共産党亀山市議会議員 服部 孝規

〒519-0156 亀山市南野町6-19-1

ご意見、ご感想は 電話、FAX 0595-82-3646

E-mail kouki@za.ztv.ne.jp 市議団ホームページ 「共産党 亀山」で検索を

亀山社保協が署名活動

“タクシー券をなくすな” 三千筆超の署名

不覚でした。2年続けてインフルエンザにかかりました。ただ救いは、39度を超える熱が出た去年と比べると今年は38度を少し超えた程度です。2月に入りましたが、まだまだ流行の時期は続きますのでくれぐれもご注意ください。

さて、亀山社会保障推進協議会(略して亀山社保協)が年末から始めた「高齢者タクシー料金助成制度の継続、改善を求める署名」ですが、1月27日時点で**3,138筆**が集計されています(まだまだ増えます)。年末年始の休みを除けば30日ほどの期間でしたが、これほどの数が集まったのには驚きました。中にはまち協や自治会として取り組まれたところもありましたが、多くはこの署名に賛同した市民の方たちの力です。

この署名は、亀山社保協が2月4日午後櫻井市長に手渡す予定です。

署名に賛同する市民の方から次々と協力の申し出

共産党市議団はこの署名に協力をし、この間配布した『こうきの議会報告』1月号や「市議団ニュース」第166号で署名への協力を呼びかけました。新聞各紙にこのニュースが折り込まれた直後から連日のように「署名に協力したいがどうすればいいのか」という問い合わせが相次ぎました。その都度、訪問し署名用紙を届けてお願いしてきました。中には一人で100筆以上集めていただいた方もみえました。

訪問すると対話になり、現在の乗合タクシー制度の使いづらさやタクシー券の必要性などが口々に語られました。お渡しした署名用紙が足りなくなり、追加で届けた方や自宅まで取りに来ていただいた方もみえました。これほど市民の方が自主的に取り組み、次々に署名運動が広がったことは初めての経験です。市民の方と願いと運動の提起が一致した場合は、これほどのエネルギーが生まれるのです。

議会の全会一致での決議が大きな後押し

この署名が広がった背景には、昨年12月議会で全会一致で「乗合タクシー制度の見直しとタクシー料金助成事業の存続を求める決議」を議決したことが大きいと思います。

櫻井市長が来年度予算案でどんな判断をするのか注目です。

総合政策部への権限集中は良かったのか

昨年4月から実施されている市の組織・機構改革ですが、10ヶ月が経過した時点で検証してみる必要があります。特に「管理部門の一元化」として行われた総合政策部の設置に問題はなかったのかを検証する必要があります。

組織・機構改革前は企画総務部と財務部というそれぞれ独立した部が一つになり、総合政策部ができました。これにより従来の企画、総務部門に加えて財務部門も一つの部になったのです。

企画、総務も財務も一人の部長でいいのか

これまで財務部では、「行政改革」、「予算」、「財産管理」、「入札・契約」、「工事の設計の審査・工事の検査」、「税の賦課・徴収」を担当していました。それがこれらすべてが総合政策部の権限となったのです。

例えばこれまでなら企画側が提案したことを財務側が予算上、問題がないかチェックする体制だったのですが、今は企画も財務も一人の部長の権限で判断することになりました。

事業を推進するために異常な予算がまかい通る

この1年間、問題となったことを振り返ってみると、一つは入札・契約問題で様々なことが浮き彫りになりました。「最低制限価格の設定がない」、「補助金を交付する事業での入札に市がどこまで関与するのかの基準がない」などです。

さらに昨年12月議会では、予算の問題が浮き彫りになりました。亀山駅周辺整備事業の予算の執行率がわずか3%にとどまり、15億円近くが翌年度へ繰り越されるという異常な予算執行や、突然出てきた鈴鹿農協への土地提供で1億円もの予算をポンと出すなどです。

「ブレーキのない車」で財政運営は大丈夫なのか

さらに亀山駅前への図書館移転では、床購入の市負担額が13億円から22億円に大きく跳ね上がりました。こんな財政運営で大丈夫なのでしょうか。

一般的な組織論として推進する側とチェックする側(場合によってはブレーキをかける)が同一人物では問題があることは明らかでしょう。推進する側(企画サイド)と財政面からチェックする側(財務サイド)でうまくバランスが取れなければ、アクセルだけでブレーキのない車ようになります。

櫻井市長にとっては企画側と財務側が一元化(一人の部長が判断)されれば自分のやりたいことがスピーディに実行できますが、チェック機能の点で問題が生じます。

こうした機構改革の検証は、今後も注視していきます。

宝島社の全面広告 「今年、嘘をやっつけろ」



1月7日の朝日新聞に宝島社の全面広告が載りました(左の写真)。「嘘つきは、戦争の始まり。」という見出しです。宝島社はファッション雑誌販売部数でトップシェアを誇る会社ですが、この全面広告は読売新聞、日刊ゲンダイ(この2社は「敵は、嘘。」と題して)にも掲載したとのこと。

「多くの指導者が平然と嘘をついている」

新聞を読まれていない方のために全文(朝日新聞分)を紹介します。

『『イラクが油田の油を海に流した』その証拠とされ、湾岸戦争本格化のきっかけとなった一枚の写真(上の写真)。

しかしその真偽ははまだ定かでない。

ポーランド侵攻もトンキン湾事件も、嘘から始まったと言われている。

陰謀も隠蔽も暗殺も、つまりは、嘘。

そして今、多くの指導者が平然と嘘をついている。

この負の連鎖はきっと私たちをとんでもない場所へ連れてゆく。

今、人類が戦うべき相手は、原発よりウィルスより温暖化より、嘘である。

嘘に慣れるな、嘘を止めろ、今年、嘘をやっつけろ。」

名指しこそしていませんが、「多くの指導者が平然と嘘をついている」という中の一人は安倍晋三首相を指していると考えられ、痛烈な世相批判です。

安倍首相の「(辺野古の)サンゴは移している」発言 なぜかマスコミは批判、報道しない

安倍首相が新年のNHKの番組で辺野古新基地建設について、「土砂投入にあたって、あそこのサンゴは移してる」と事実と異なる発言を行いました。この発言に玉城デニー沖縄県知事は翌日、「事実はそうになっておりません」と反論しました。

実際に移植されたのは土砂投入区域外のごく一部のサンゴだけです。地元の琉球新報は、「一国の首相が自らフェイク(嘘)の発信者になることは許されない」と厳しく批判しました。

理解できないのはNHKと民報各局の対応です。NHKは「番組内の政治家の発言について答える立場にない」といい、訂正しようとしません。民報各局も報道した形跡はありません。これでは「安倍さんを守るマスコミ」といわれても仕方ありません。